

第4回薩摩川内市行政改革推進委員会 会議録

開催日時	平成 29 年 7 月 25 日(火) 13:30～16:30	
開催場所	薩摩川内市役所 501 会議室	
出席者	委員	外菌会長、仙波副会長、田島委員、宮元委員、石原委員、小平委員
	事務局	行政改革推進課長、同課長代理、同課職員
	傍聴者	なし

□ 会次第

開会	主管課・室
1 開会	
2 補助金等評価	
(1) 身体障害者福祉協議会運営補助金	障害・社会福祉課
(2) つくし園保護者会運営補助金	障害・社会福祉課
(3) 視力障害者協会運営補助金	障害・社会福祉課
(4) 川薩地区ろうあ協会運営補助金	障害・社会福祉課
(5) 手をつなぐ育成会運営補助金	障害・社会福祉課
(6) 精神保健福祉促進の会運営補助金	障害・社会福祉課
(7) 人権啓発等連絡協議会運営補助金	障害・社会福祉課
3 閉会	

□ 議事

1 開会

○ 会長

(挨拶)

2 補助金等評価

(1) 身体障害者福祉協議会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○委員 川内身体障害者協会や類似団体との統合を進め、会員の増に努めるとあるが。

●主管課 薩摩川内市身体障害者福祉協議会は樋脇、入来、東郷、祁答院の4地域で組織されている団体である。川内地域には川内身体障害者協会があり、別々に活動されている。統合の話し合いができていないので、行政としては、根気強く要望していきたい。

○委員 同協議会の目的は何か。

●主管課 障害のある方同士の情報交換、福祉増進が最終目標である。そのために、スポーツ大会などで集まり、交流を図っている。

○委員 川内市身体障害者協会へも補助しているのか。

●主管課 川内市身体障害者協会への補助はない。同協会は自動販売機設置に伴う益金を自主財源として自立運営している。

○会長 障害者手帳を持っている方

5, 720名のうち協会所属が236名。会員を増やすことは考えていないのか。

●主管課 団体に所属して活動しようとする

る方が少ない。また、新規に障害者手帳を取得する方の多くが80～90歳で、会員を増やそうにも増やせない事情もある。

○**会長** 様々な事情等により統合がまだ協議中とのことであるが、会の存在意義が薄くなっている。前向きに検討いただきたい。

○**委員** 加入者があまりにも少ない。会に入っていない方々はどのような活動を行っているのか。

●**主管課** 団体に加入してスポーツや行事などの活動を行える方自体が少ない状況にある。

○**委員** 2020年には東京でパラリンピックが開催される。夢を語れるような組織をつくってほしい。

○**委員** 前回評価が「縮小」となっている。この結果を受けた対応は。

●**主管課** 補助金縮小の評価を受け、事業収入や会員加入促進等について、協議を行った。

○**委員** 視点別評価のコメントに活動が限定的になっているとあるが、スポーツ大会、文化行事への参加など毎年同じだからか。

●**主管課** お見込のとおりである。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「補助内容の改善」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 川内身体障害者福祉協会との統合が課題である。統合がまだ協議中とのことであるが、所管課が調整し、統合を前向きに検討いただきたい。

○**委員** 類似団体との整理・統合が課題であ

る。各団体と調整し、整理・統合を検討されたい。

○**会長** まとめて記載したい。

2 補助金等評価

(2) つくし園保護者会運営補助金(書類審査)

(書類審査)

○**委員** つくし園保護者会への補助は特定の団体への利益供与になりかねないのでは。

●**事務局** つくし園は市の施設で、指定管理者として薩摩川内市社会福祉協議会が管理・運営している。つくし園の運営に直接関わる団体ではないので、利益供与に当たらないと考えている。

○**委員** 評価を「廃止」とした理由は。

●**事務局** 他の保育園の保護者会等に対して補助金を交付していないからである。今後、会費収入等により、自立運営が可能となるよう指導している。

○**委員** 繰越金が多額となっている。

●**事務局** 31年度廃止に向け、取り組んでいる過程と考えていただきたい。

(まとめ)

○**委員** 他の保育園の保護者会等への同様の補助金はない。そのため、適格性・妥当性に欠けると考える。

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。また、適格性・妥当性は、「低い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「廃止」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 31年度廃止に向け、保護者会には十分説明されたい。

○**会長** まとめて記載したい。

2 補助金等評価

(3) 視力障害者協会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員 収入の約29万円に対して負担金が7万5千円と占める割合が大きい。支出の状況はどのようになっているか。また、視力障害のある方415名に対して会員が24名と少ないのはなぜか。
- 主管課 負担金の内訳は川内連協費4万円と県連費3万5千円である。また、研修会や大会参加費、点訳・音訳への助成金などの事業費として10万円強、会議費や事務通信費として11万円強計上されている。会員数についてはご指摘のとおりである。新規会員の加入が進んでいない状況にある。
- 委員 事業実績に記載されている研修会や講習会への出席人数は、すべて会員の方か。
- 主管課 総会、理事会等の参加者については視覚障害のある方が出席している。点訳奉仕員養成講習会の参加者については健全者であるボランティア希望者が出席している。
- 委員 点訳奉仕員養成講習会への参加者は会員か、それとも一般の方か。他に市が開催している講習会はあるのか。
- 主管課 一般の方である。広報紙で募集を行い、5～6名の方にボランティアとして活動していただいている状況である。他に同様の講習会はなく、市が開催している講習会もない。
- 会長 補助金の事業実績書の提出を受けの際に、協会の会員の人数と受講者の人数が混在しているので、協会の会員の活動実績がわかりづらい。わかりやすく記載するよう指導してほしい。
- 委員 会員24名が参加している事業がないのではないのか。
- 主管課 8月に開催された研修会には、毎年ほぼ全員が参加している。
- 委員 点訳奉仕員を養成することは大事

なことであるが、補助金ですることか。協会の本来の目的は他にあるのではないか。

- 主管課 市としては、視力障害者に対する広報紙の点訳・音訳はとても大事な事業であると考えている。また、委託料として別に支出している。協会の事業費の中で、点訳・音訳への助成金5万円についても、点訳奉仕員を養成するために、講習会にでいただくための助成金である。
- 会長 収支計算書に記載してある組織強化助成金14万円の収入はどこから出ているのか。市からの補助金が重複していないか。
- 主管課 市の身体障害者協会連絡協議会から出ているものであり、同連絡協議会は自主財源で運営されているので、市からの補助金は入っていない。

(まとめ)

- 会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 委員 類似団体との整理・統合が課題である。各団体と調整し、整理・統合を検討されたい。
- 会長 事業実績書への記載について、視力障害者協会の会員の活動実績を記載するよう指導されたい。
- 委員 対象者数と比較して、会員数が少ない。より有意義な活動になるよう加入促進を図られたい。
- 会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(4) 川薩地区ろうあ協会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員 参加者数が少ないように感じる。
- 主管課 参加者数が少ないとあるが、会員数が19名と少ない状況にあるので難しい。
- 委員 点訳奉仕員講習会等の開催について、もっと積極的なPRが必要となると思われるが。
- 主管課 点訳奉仕員講習会等の開催について、広報紙で参加者募集を行っている。団体からの要望があれば、必要に応じた対応したいと考えている。
- 委員 助成金11万1千円の内訳が分からない。また、市からの補助金が重複していないか。
- 主管課 助成金の内訳は市からの補助金3万6千円と川内市身体障害者連絡協議会からの組織強化助成金7万5千円である。また、資料3と同様、同連絡協議会は自主財源で運営されているので、市からの補助金は入っていないため、重複はない。
- 委員 事業収入とは何か。
- 主管課 手話実施への市からの委託料である。平成28年度決算でいうと市からの委託料を23万円受けて、手話をされた方へ23万円同額を支出しているものである。
- 委員 旧4町(樋脇、入来、東郷、祁答院)の方で、川薩地区ろうあ協会へ加入している方はいるのか。
- 主管課 旧4町で障害のある方は、加入しておらず、資料1の薩摩川内市身体障害者福祉協議会に加入されている。旧川内市で障害のある方は、身体障害者福祉協会、ろうあ協会、視力障害者協会とそれぞれの障害の状況にあわせた協会を作っている。そして、すべての組織を統括する連絡協議会で取りまとめを行っている。
- 委員 平成28年度活動報告で全国・全九州ろうあ者大会へ積極的に参加されている状況は分かった。ろうあ協会の決算の支出欄にないが。

- 主管課 研修費の支出欄にはない。したがって、同協会の経費では支出していない。どのような経費で研修に参加されたかまでは把握はしていない。

(まとめ)

- 会長 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 会長 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員 異議なし
- 委員 類似団体との整理・統合が課題である。各団体と調整し、整理・統合を検討されたい。
- 委員 対象者数と比較して、会員数が少ない。より有意義な活動になるよう加入促進を図られたい。
- 会長 まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(5) 手をつなぐ育成会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

- 委員 手をつなぐ育成会とはどのような会なのか。
- 主管課 知的障害のある方だけでなく、その家族を含めた会である。県・全国にもある組織である。
- 会長 平成28年度の収支精算書の収入欄に補助金が79万5千円あるが、市と社会福祉協議会から補助金の交付を受けているのか。また、川内市身体障害者連絡協議会からの組織強化助成金はないのか。
- 主管課 お見込のとおりである。社会福祉協議会の自主事業として共同募金事業があり、手をつなぐ育成会には、その配分金が交付されている。市連絡協議会からの助成金はない。
- 委員 平成28年度の収支精算書の支出

欄に研修会費60万円弱とある。研修会が手をつなぐ育成会の主たる事業であると考えてよいか。また、備考欄に行政と語る会他とあるが。

●**主管課** 主な事業としては、研修会やスポーツ大会への参加、文集の発行等であると考えている。備考欄は活動の一部であり、事業実績書を参照していただきたい。

○**委員** 補助金が交付され、運営を行っている団体であるので、市としてもどの程度どのくらい金額がかかっているのか把握する必要がある。収支精算書を受け付けるときに、明細が分かるように整理していただく必要がある。

○**会長** 市からの補助金だけでも60万円支出されている。金額が大きいので見過ごせない。今後はその用途を明確にしていきたい。

○**委員** 参加者の内訳は。

●**主管課** 手をつなぐ育成会は知的障害者をもつ保護者で組織する団体であり、研修会等は保護者の参加が多いが、障害者自身の参加も一部ある。

○**委員** 「愛のひとしづく益金」とは何か。

●**主管課** 全国手をつなぐ育成会が主催し、障害者が作成した小物類、物品等を販売。その収益を障害者施設、団体等に配分するものである。市内においても、手をつなぐ育成会が企業、学校等に購入をお願いし、その売り上げに応じた配分金が交付されている。

(まとめ)

○**会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。

○**委員** 異議なし

○**委員** 類似団体との整理・統合が課題である。各団体と調整し、整理・統合を検討されたい。

○**会長** 自主財源の確保に努められ、補助金額には縮小の余地があると所管課が考えている。相手方と調整し、縮小の方向性を示されたい。

○**委員** 愛のひとしづく運動をもっと盛り上げてほしい。そして、将来的には市からの補助金に頼ることなく、自主運営を目指されたい。

○**会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(6) 精神保健福祉促進の会運営補助金

(主管課説明後、質疑・協議)

○**会長** 市からの補助金以外の収入はあるか。

●**主管課** 赤い羽根共同募金の助成金を社会福祉協議会からいただいている。また、ファミリーHP薩摩、中郷病院、Kメンタルクリニック、若あゆ作業所の4団体から賛助会費をいただいている。

○**会長** 農産物や物販等でも収入を得ているか。

●**主管課** お見込のとおりである。

○**会長** 事業費の中で、家族支援費とはどのような活動をするものなのか。

●**主管課** 子どもや地域の事など悩みを抱えている会員が定期的に集まって情報交換するもので、当事者会やおしゃべり会のことである。

○**委員** 補助金の視点別評価の中で、主管課評価でB評価が多い。理由は。

●**主管課** 健常者を含めた市全体で考えると、所管課としては一部の対象者への事業と考えているので、B評価とした。しかしながら、公益性、必要性、有効性、適格性及び妥当性すべて高いと考えている。

○**会長** 評価が他の補助金と比較すると厳しすぎると思われる。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「現状のまま継続」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 委員** 類似団体との整理・統合が課題である。各団体と調整し、整理・統合を検討されたい。
- 会長** まとめに記載したい。

2 補助金等評価

(7) 人権啓発等連絡協議会運営補助金(書類審査)

(事前質問あり)

- 委員** 川内地域及び樋脇地域の補助金が廃止となり、入来地域のみ残った理由は、これが「縮小」との判断なのか。
- 事務局** 入来地域のみが同和問題等人権対策事業を今後も継続して行っていくとの協議結果によるものである。なお、川内地域及び樋脇地域は平成28年度で隣保館事業廃止となり、協議会を解散したため、補助金も廃止した。
- 委員** 活動が一定の効果を生じているとの具体例は。
- 事務局** 県内研修やスポーツ大会等を通して地域交流による親睦及び人権意識の高揚に一定の効果があると考えている。
- 委員** 今後も継続していく予定の入来地域では、研修に30万円かかっている。事業運営は団体の都合ではあるが、詳細を確認されたい。
- 事務局** 同和問題等人権に係る各種研修会等に地域住民や役員等が参加し、人権対策事業推進を図ったと考えている。

(まとめ)

- 会長** 本補助金の外部評価の視点別評価について公益性、必要性、有効性、適格性・妥当性は、いずれも「高い」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし
- 会長** 今後の改革の方向性として、外部評価は内部評価と同じで、「見直しの上で継続」で「縮小」という評価でよろしいか。
- 委員** 異議なし

3 閉会

- 事務局**
(挨拶)